

チームカンファレンス実施に向けての取り組み
～医師とのカンファレンス実施に向けて～

田中ひとみ¹⁾

要旨：当院看護局は目標管理を実践している。看護師長は年度末に実践報告会と題し、自部署の課題解決に向けた取り組みとその成果をプレゼンテーションしている。今回、病院機能評価の判定結果を受け平成29年度の自己目標に集中治療室におけるチームカンファレンス実施を掲げ取り組んだので報告する。

キーワード：目標管理、病院機能評価、チームカンファレンス

ORIGINAL ARTICLES

Efforts toward the team conference implementation

—For conference implementation with a doctor—

Hitomi TANAKA¹⁾

The point: House nursing station in our hospital carries out aim management. The nursing divisional commander gives a presentation, named a practice briefing session in an end of the fiscal year, concerning the results of actions to resolve the problems of his/her own team. For the variorum treatment room, according to the judgement result of the hospital usability test, the enforcement of team conference was set as the self-aim of 2017 and the staffs struggled with the issue for one year. Hereby, the content of the presentation was briefly reported.

Keyword: Aim management, hospital usability test, team conference

¹⁾ Intensive care unit, Mutsu General Hospital
Corresponding Author: H.Tanaka
(nurse@hospital-mutsu.or.jp)
1-2-8 Kogawa-machi, Mutsu 035-8601, Japan
TEL:0175-22-2111 FAX:0175-22-4439
Received for publication, December 17, 2018
Accepted for publication, December 26, 2018

¹⁾むつ総合病院 集中治療室
責任著者: 田中ひとみ
(nurse@hospital-mutsu.or.jp)
〒035-8601 青森県むつ市小川町一丁目2番8号
TEL:0175-22-2111 FAX:0175-22-4439
平成30年12月17日受付
平成30年12月26日受理

はじめに

当院は2016年10月病院機能評価 3rd G:Ver.1.1を受審し認定病院となっている。医療機能評価事業は、評価によって明らかになった問題を改善することによって、病院サービスの質の向上を図ることを目的としている。ICUは「2領域 良質な医療の実践、チーム医療による診療・ケアの実践」重症患者の管理を適切に行っているにおいて判定B（一定の水準に達している）、努力項目として日常的な重症患者

のカンファレンスを期待するとの評価であった。カンファレンスとは「特定の目的や課題について協議する会議」「個々の患者の病状や治療経過について確認し、問題解決の方法について話し合い、今後の治療とケアについて決定すること」と定義されている。医療現場で行われるカンファレンスにはさまざまなものがあるが、今回は医師とのカンファレンス実施に向け取り組んだのでここに報告する。

取り組み

問題点と対策

<p>1. 医師が外来・検査・手術で忙しくカンファレンスをする時間確保が難しい</p> <p>◆時間確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 患者回診時の時間を有効活用(朝の7時～8時 外科回診時) • 看護師から積極的にコミュニケーションをとり、問題点・疑問点・治療方針を提示・確認する
<p>2. 医師とカンファレンスを実施しようという意識が低い (できなければ仕方ない)</p> <p>◆意識改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 現場のリーダーである主任のスタッフ牽引力 • 医師との方針の一致⇒看護の方針明確化(質の高い看護提供) • 責任の明確化(日々の推進はリーダー) • 実施状況の見える化(チェックリストの活用・実施率の開示)
<p>3. 医師と患者の病状・経過・今後の方針について話しているがカンファレンスと自覚していないため、口頭のみで記録に残せていない。</p> <p>◆カンファレンスの意味を再確認 ◆内容を記録に残す</p>	<ul style="list-style-type: none"> • カンファレンスとは「個々の患者の病状や治療経過について確認し、問題解決の方法について話し合い、今後の治療とケアについて決定すること」⇒全員で再確認 • カンファレンスを実施した時は【記号「カ」】で記録に残す

図1 問題点と対策

病院機能評価の判定を機に部署として、現状を理解し、できない理由とその対策について検討した。

一つは、医師が外来・検査・手術等で忙しくカンファレンスをする時間確保が困難であること、また当院ICUは各科管理のオープンICUであり、主治医がそのままICUでの患者管理を行う形態であり主治医毎にカンファレンスを設定する時間確保が困難であるという問題があがった。

二つ目は、医師とカンファレンスを実施しようという意識が低い、できなくても仕方がないという考えが定着しているのではないかと意識の問題があがった。

三つ目は、医師と患者の病状や今後の方針などについて話しているがカンファレンスと自覚していなかったため口頭確認のみで終わり記録に残せていないというカンファレンスそのものの理解不足と記録の問題があがった。

時間確保の問題に関しては、医師にカンファレンスの時間を確保をしてもらうのは現実困

難であった。医師側の問題は解決できない中で看護側としてどうすべきか、どうすれば実施できるかという建設的考え方で検討した。結果、主治医は必ず朝に患者の状態を診に来ていること、外科は回診があること、その時間を有効活用し、看護師側から積極的に声をかけ、まずは短時間でも医師とカンファレンスを実施しよう取り組んだ。

カンファレンスができなくても仕方がない、実施しようという意識の低さに関しては現場のリーダーである主任のスタッフ引率力が必要であり、役割モデルとして主任が自己目標にも掲げ取り組んでくれた。また医師の方針や患者の病状が明確になることで看護の目指す方向性も明確となりそれが看護の質にもつながることを再確認した。日々のカンファレンス推進はリーダーの役割とし、リーダー業務に組み込んだ。実施状況の可視化については主任がチェックリストを作成し、実施し記録に残した件数を開示した。

カンファレンスそのものの意味を理解して

いないことと記録の問題については、「カンファレンスとは特定の目的や課題について協議する会議」「個々の患者の病状や治療経過について確認し、問題解決の方法について話し合い、今後の治療とケアについて決定すること」という言葉の意味を再確認し、実施した時は記号「カ」（電子カルテ上のカンファレンスの記号）で記録に残すようにした。

結果

平成 29 年 6 月から実施（データ集計：平成 29 年 6 月～平成 30 年 1 月の 8 ヶ月間）
入室患者延数 624 名、医師とのカンファレンス実施件数 221 件、実施率 36%、月平均実施日数 20 日であった。

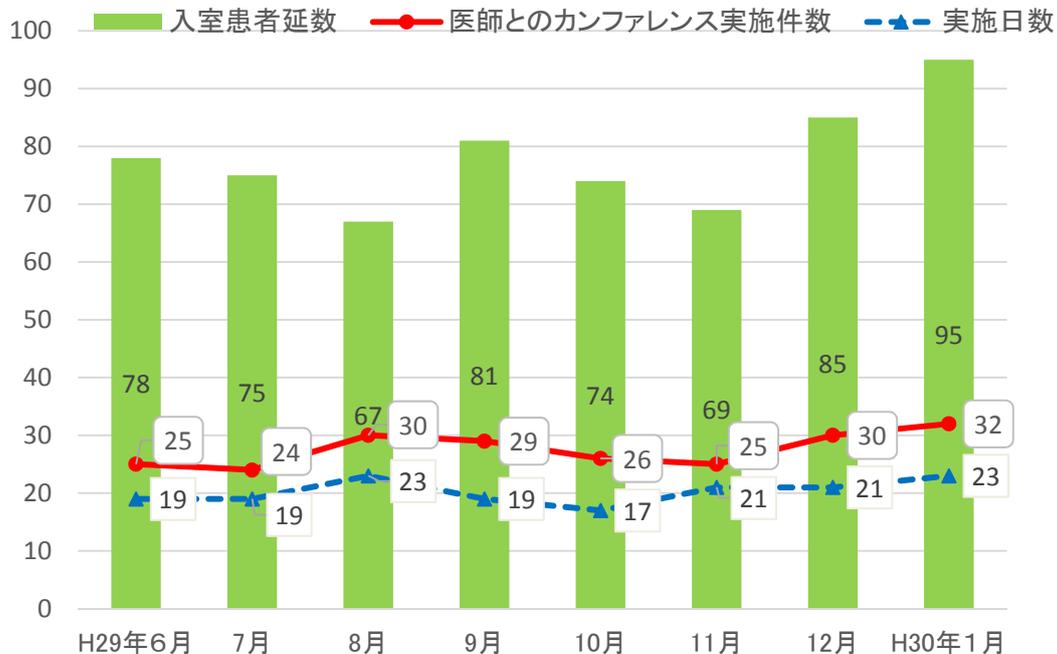


図2 実施状況

今後の課題

今後もカンファレンス実施を継続するとともに、内容の充実を図り、それを看護につなげていくことが課題である。目的やテーマを決め、限られた時間を有効に活用し実施していきたい。

終わりに

今回目標管理の取り組みの一環として医師とのカンファレンス実施に向けて取り組んだ。患者や家族に関する問題や課題について検討したり、情報共有することで看護の目指す方向性が明確となり効果的な看護実践につながっていくと考える。

引用・参考文献

- 1) 認定看護管理者会：師長の役割・場面別看護管理実践 35、日総研
- 2) 古川久敬：看護師長・主任のためのグループマネジメント、日本看護協会出版会
- 3) 重症集中ケア 2018. 8・9月号 ケースカンファレンス事例徹底検討、日総研